

# 平成27年度事業報告書

一般財団法人 日本自転車普及協会

# 平成 27 年度 事業報告書

## I. 事業の概要

自転車は近距離交通手段・運搬手段としての利便性・経済性が高く、通勤・通学・買い物等広く市民生活の中で利用されている。加えて、現代人の健康志向を受けてスポーツ・レクリエーションの用具としての活用も高まってきている。また、近年、地球温暖化防止が世界的な緊急課題となってきている中、その対策の一つとして、自転車の無公害・省資源性が注目されていることなどから、一層の自転車利用が進んでいる。

しかしながら、自転車乗用環境の整備はいまだ立ち遅れており、自転車利用者のモラルの低下などによる鉄道駅周辺や商店街地区などに見られる自転車の放置問題なども十分に改善されているとは言い難い状況にある。また、交通ルール・マナーに関する教育も十分とは言えず、取り締まりも追いついていない中、自転車交通事故の減少は鈍く、未だに交通事故の約2割で推移している。特に、歩道上においての人と自転車の事故が目立っており、事故の補償を巡るトラブルの増加、賠償金の高額化など、深刻な社会問題となっている。

こうした状況の中、平成27年6月1日より改正道路交通法の一部が施行され、信号無視、酒酔い運転などの違反を繰り返す悪質な自転車運転者に対し、安全講習の受講が義務付けられることになるなど、自転車の安全利用促進に繋がるのが期待される。本会としても、自転車駐車場の整備や専用レーンの設置をはじめとする自転車の乗用環境の整備を積極的に推し進めていくとともに、道路交通法等関連法規の見直しを提案し、併せて、自転車利用者に対し交通規則遵守、マナーの向上を促す啓発活動を実践していくことが重要となっている。

本会は、このような認識のもと、国民が自転車を安全かつ快適に利用できる環境の早期実現を目指し、自転車利用により得られる様々な社会的効用を広めるため、競輪補助事業あるいは一般事業として、自転車安全利用の普及啓発、環境の整備促進等に関する事業を関係各方面の協力を得て次のとおり実施した。

\*なお、以下で【※】の事業については、(公財)JKAの公益振興補助事業として実施した。

## 1. 自転車競技の普及促進事業

### (1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業【※】

### (2) ツアー・オブ・ジャパン富士山・東京ステージ開催・広報事業【※】

自転車競技を通じて青少年の国際交流と国民体育の向上に寄与することを目的に、5月の「自転車月間」主要行事として国際自転車競技連合(UCI)公認の自転車レース「第18回ツアー・オブ・ジャパン」を全7ステージにおいて開催した。全ステージ公道を使用したコース設定であり、一般市民やマスコミに対しても、注目度の高い大会となった。

また、「第19回ツアー・オブ・ジャパン」の周知浸透を図るため、パブリシティ活動など広報活動の準備や大会開催記者発表を行った。

## 2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動

### (1) 自転車月間推進事業【※】

「自転車月間(自転車の日/5月5日)」の趣旨を広く一般に周知するため、自転車月間記念行事「サイクルドリームフェスタ」を聖徳記念絵画館前通り(東京都新宿区霞ヶ丘町)及び神宮外苑サイクリング道路において開催した。

また、平成28年度5月の自転車月間事業に向けて、自転車月間推進協議会総会を開催した。

### (2) 自転車文化センター運営事業【※】

自転車に関する正しい認識と理解を深め、国内における自転車文化を醸成するため、本会が運営する自転車に関する総合情報提供施設「自転車文化センター」を中心に、次の事業を行った。

#### ① 自転車に関する総合情報提供事業【※】

自転車に対する市民及びメディアの関心は高く、各種自転車情報収集のニーズがあるため、国内外の自転車関連資料及び情報の調査・収集を行った。

収集した資料・情報はデータベース等で管理し、研究成果と併せて、展示やスタッフの対応を通して来館者に提供した他、現物及びデータ資料等をメディアや自治体が主催するイベント等に貸し出しを行った。

また、当センターのホームページにおいて成果を広報した。

#### ② 自転車に関する企画催事の実施【※】

乗り手の体格・用途に合わせて自転車をオーダーメイドで創る、高い技術を持ったハンドメイドビルダーが作成した自転車や各種パーツ、また高齢者・障がい者向けの特殊な自転車を一堂に会して紹介する「2016ハンドメイドバイシクル展」を、平成28年1月23日(土)、24日(日)に開催した。

本催事は、年々人気が高まっており、今年の入場者数は、対前年比 105.3%であった。

#### ③ 自転車に関するテーマ展示【※】

自転車に関わる社会文化の歴史について、当センター所蔵資料を中心に、交通ルールとマナーの啓発や最新の情報を加えた紹介によって、自転車に対する興味・関心を深めてもらうとともに、自転車の魅力や新たな活用方法等を発信するため、3ヶ月ごとにテーマを変えたテーマ展示を計4回開催した。

#### ④ 自転車教室(楽しさと安全利用)【※】

自転車の楽しみや魅力を伝えることを目指して、夏休み期間中に一般の方が参加・体験できる親子自転車科学教室、自転車ペーパークラフト工房等を開催した。

加えて、地方自治体等からの依頼を受けて、当センター学芸員、自転車安全教育指導員資格を有するスタッフが講師となり、小・中学生や高齢者等を対象に、パワーポイントを使った座学講習や、当センター所有の自転車シミュレーターを使用した実技体験を盛り込んだ出張形式の自転車交通安全教室を、合計18回開催した。

#### ⑤ 自転車常設企画展示

年間を通じて、多数の来場者がある千代田区の科学技術館(展示室名:自転車広場【※】)及び伊豆の日本サイクルスポーツセンター・ベロドロームにおいて、当センターの施設紹介と歴史的自転車の展示による広報活動を行った。

#### ⑥ 自転車利用環境調査研究【※】

当センターの学芸員1名及び職員1名が、自転車文化の承継と普及、ならびに現在・未来における「人と自転車」「社会と自転車」との関わりを考える提案のための研究調査を行い、「自転車の通行環境」、「高齢者の自転車利用」、「自転車競技の普及」をテーマに6本のレポートにまとめて報告書を作成し、全国都道府県立図書館や交通安全協会等に送付した。

### (3) バイコロジー推進事業【※】

自転車の有効利用を奨励し、安全かつ快適に利用できる環境の実現を目指すバイコロジー運動を全国の地方組織を通じて実施した。

駅前などの街頭においては、自転車乗用環境の啓発に関する事業として、自転車利用者のルール遵守とマナー向上を図るキャンペーン等を行った。

また、バイコロジー運動のリーダーを育成し、自転車市民権運動の活性化を図ることを目的として、バイコロジー指導者養成セミナーを開催した。

### (4) 自転車ポタリング

自転車は軽車両であり、車の仲間であり車道の左側を走行する乗り物であることを、一般の方に改めて知ってもらう機会として、参加者の方に楽しみながら自転車に乗ってもらい、自転車の正しい乗り方、ルールやマナー、車道走行する際の注意点等を学ぶ場を創出することを目的として、本年度においては1回実施した。

### (5) 自転車利用実態調査

都内における自転車利用の実態を把握するための走行台数、走行空間等の調査を行ったほか、自転車乗用環境の実態を把握するために駐輪状況(放置含む)、自転車レーンの確認、および危険箇所の選定(交差点など)等の調査を行った。

### (6) 自転車駐車場設置貸与事業

全国の鉄道駅周辺の放置自転車対策としてモデルとなる整備した自転車駐車場について、無償貸与・譲渡を行った。

3. 自転車 ADR 事業 注) ADR…裁判外の法的紛争解決手続きの総称

自転車関係団体の協力の下、法務省の認証を得た自転車 ADR センターにおいて、自転車が関係する交通事故を専門に扱う ADR の業務を、年間を通して行った。

4. 自転車関連機器の普及等事業

自転車競技運営に欠かせない映像機器、投票業務用機器等のリースを、希望施行者に対して実施した。

また、自転車競技の円滑な運営と高い競技レベルの維持に資するため、競技用自転車タイヤに関し、本会で製品の備蓄を行い、利用者に販売する他、関連する自転車アクセサリーの販売も行った。

5. 財団の運営に関する業務

平成27年6月26日、平成26年度公益目的支出計画実施報告書を内閣府公益等認定委員会に提出した。

自転車総合ビル関係では、ビル内の各種整備・改修を行った。

## II. 事業の実施状況

### 1. 自転車競技の普及促進事業

#### (1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業

#### (2) ツアー・オブ・ジャパン富士山・東京ステージ開催・広報事業

自転車競技を通じて青少年の国際交流と国民体育の向上に寄与することを目的に、日本で数少ない国際自転車競技連合(UCI)公認の自転車ロードレース「第18回ツアー・オブ・ジャパン」を堺、美濃、いなべ、南信州、富士山、伊豆、東京の7都市において、国内外17チーム102名の参加により開催した。7ステージ全て公道を使用したコース設定であり、また、一昨年よりUCIのレースクラスが2.2から2.1にランクアップしたことにより、名実ともに日本最大のステージレースとなり、トップカテゴリーのUCIプロチームの参戦が今年も叶っただけでなく、有名選手が出場し、例年以上に注目度が高く、盛り上がった大会となった。

観客数については、いなべステージ(新ステージ)を除く、全てのステージで増加となった(平成26年度 計/278,200名、平成27年度 計/305,300名)。

また、併せて、各会場において、自転車乗用時のルール・マナーの啓発を図った他、“自転車は車道の左側を走行しましょう”等の自転車の安全で正しい利用を訴えた。

広報活動については、大会3ヶ月前にSUBARU本社ビル(恵比寿)にて記者発表を行い、大会の告知と取材誘致を図った。さらに、自転車月間の趣旨の周知を図るためプレスリリース及び大会告知ポスター・チラシを作成し、配布・提出した他、ホームページ及びFacebook(いいね件数 5,554 件/対前年比 146.7%)も活用し情報発信を行った。その他、大会の周知浸透を図るため、テレビ、雑誌等を活用した広報活動も行うとともに、4会場(堺・いなべ・美濃・東京ステージ)においては、ファンサービスの一環として大型映像装置による中継を実施、5会場(いなべ・美濃・南信州・富士山・東京ステージ)においては、Ustream 中継を行った。その結果、報道件数は計 421 件(対前年比 144.6%)となった。

また、2015年6月20日(土)には大会総集編をBSフジにて放映し、大変好評であった。

加えて、次年度開催の「第19回ツアー・オブ・ジャパン」の実施に向けて、新ステージのコースの設定・招待チームの選定など、大会実施概要を策定し準備を行ったほか、「第19回ツアー・オブ・ジャパン」の周知浸透を図るため、パブリシティ活動などの広報活動の準備や以下のとおり大会開催記者発表を行った。

#### ① 実施の概要

5月17日(日)堺ステージ 大阪府堺市(13時40分スタート)

大仙公園周回コース \*個人タイムトライアル

2.65km×1周=2.65km

5月19日(火)いなべステージ 三重県いなべ市(9時スタート)

阿下喜駅前→下野尻交差点～農業公園(梅林公園)周回コース

〈パレード 2.8km〉 9.1km+15.2km×8周=130.7km

5月20日(水)美濃ステージ 岐阜県美濃市(9時15分スタート)

旧今井家住宅前→横越→美濃和紙の里会館前周回コース

〈パレード 4.0km〉 11.6km+21.3km×6周=139.4km

- 5月21日(木)南信州ステージ 長野県飯田市(9時15分スタート)  
飯田駅前→下久堅周回コース→松尾総合運動場前  
(パレード7.3km) 12.2km×10周+1.6km=123.6km
- 5月22日(金)富士山ステージ 静岡県駿東郡小山町(10時スタート)  
(セレモニーラン:小山町生涯学習センター→須走商店街→ふじあざみライン入口  
13.2km)  
ふじあざみライン入口→富士山須走口5合目(ヒルクライム)  
11.4km(標高差1,200m登坂)
- 5月23日(土)伊豆ステージ 静岡県伊豆市(9時30分スタート)  
日本サイクルスポーツセンター周回コース  
12.2km×10周=122.0km
- 5月24日(日)東京ステージ 東京都(11時スタート)  
日比谷シティ前→大井埠頭周回コース  
(パレード1.2km) 14.7km+7.0km×14周=112.7km
- 総距離 642.45km

## ② 出場チーム

海外/ランプレ・メリダ(イタリア)、NIPPO・ヴィーニ ファンティーニ(イタリア)、ドラパック プロフェッショナル サイクリング(オーストラリア)、アヴァンティ レーシングチーム(ニュージーランド)、タブリーズ ペトロケミカル チーム(イラン)、RTS サンティック レーシングチーム(台湾)、ピシュガマン ジャイアント チーム(イラン)、スカイダイヴ ドバイ プロサイクリングチーム(アラブ首長国連邦)

国内/ブリヂストン アンカー サイクリングチーム、愛三工業レーシングチーム、チーム右京、宇都宮ブリッツェン、那須ブラーゼン、シマノレーシングチーム、マトリックス パワータグ、キナン サイクリングチーム、日本ナショナルチーム

## ③ 成績

個人総合時間賞 ミルサマ・ホルセイェティゴラール(タブリーズ ペトロケミカル チーム)

個人総合ポイント賞 ヴアレリオ・コンティ(ランプレ・メリダ)

個人総合山岳賞 ラヒーム・エマミ(ピシュガマン ジャイアントチーム)

新人賞 イリア・コシェヴォイ(ランプレ・メリダ)

団体総合時間賞 ピシュガマン ジャイアント チーム

## ④ 観客数

堺ステージ	71,000人(天候:晴れ)
いなべステージ	18,000人(天候:雨のち晴れ)
美濃ステージ	26,000人(天候:晴れ)
南信州ステージ	37,000人(天候:晴れ)
富士山ステージ	5,800人(天候:晴れ)
伊豆ステージ	20,500人(天候:晴れ)
東京ステージ	127,000人(天候:晴れ)
計	305,300人

⑤ 広報活動

《第18回大会》

- (ア)大会の告知と取材誘致及び自転車月間の趣旨の周知を図るため、プレスリリース作成しマスコミ各社に送付した結果、新聞、雑誌、WEBにて多数取り上げられた。
- (イ)大会告知ポスターやチラシを作成し、4月から5月にかけて全国の関係団体等に配布、提出したほか、公式プログラムを作成、販売した。また、ホームページ、Facebook(新規)も作成し、情報の発信を行った。
- (ウ)ツアー・オブ・ジャパン4会場(堺・美濃・南信州・東京ステージ)において、ファンサービスの一環として大型映像装置による中継を行った。また、ツアー・オブ・ジャパン各会場において、自転車乗用時のルール・マナーの啓発を図った。
- (エ)大会の周知浸透を図るため、テレビ、雑誌等を活用した広報活動を下記のとおり展開した。

記

a. テレビによる広報

放映日	番組名	放送時間	放送波
6/20(日)	第18回ツアー・オブ・ジャパン総集編 ～からだひとつ自転車ひとつで戦う男たち～	14:00～14:55	BS フジ

b. 自転車専門誌による広報

掲載誌名	掲載号	掲載内容・スペース
サイクルスポーツ	6月号	ツアー・オブ・ジャパン告知記事 1頁
ファンライド	6月号	ツアー・オブ・ジャパン告知記事 1頁
バイシクルクラブ	6月号	ツアー・オブ・ジャパン告知記事 1頁

▼また、ツアー・オブ・ジャパンに併せて、次の大会を開催した。

1. 「第5回堺国際クリテリウム」

- (1) 期 間:平成 27 年 5 月 17 日(日)[11:15～12:00]
- (2) コース:大阪府堺市 大仙公園周回コース(ツアー・オブ・ジャパン堺ステージと同コース)
- (3) 参加者:合計 102 名 \*ツアー・オブ・ジャパン全出場選手

2. 「第4回 JBCF(全日本実業団自転車競技連盟)堺クリテリウム」

- (1) 期 間:平成 27 年 5 月 17 日(日)[12:05～13:25]
- (2) コース:大阪府堺市 大仙公園周回コース(ツアー・オブ・ジャパン堺ステージと同コース)
- (3) 参加者:合計 101 名

3. 「自転車月間 第4回 JBCF 大井埠頭ロードレース」

- (1) 期 間:平成 27 年 5 月 24 日(日)[9:15～10:30]
- (2) コース:東京都品川区 大井埠頭周回コース(ツアー・オブ・ジャパン東京ステージ周回コースと同コース)
- (3) 参加者:合計 168 名



## 《第19回大会》

### (ア)「第19回ツアー・オブ・ジャパン」公式記者発表

実施日:平成28年3月30日(水)18時～20時

実施場所:SUBARU STAR SQUARE(エビススバルビル1F)

登壇者:MC:Alee/進行:栗村修(大会ディレクター)/ゲスト:村上嘉之(MAVIC ニュートラルサービス)、黒川邦彦(SHIMANO ニュートラルサービス)、増田成幸選手(宇都宮ブリッツェン)、伊丹健治選手(キナンサイクリングチーム)

取材社数:19社 計45名/協賛企業関係者15名及び事前募集の一般ファン約40名が参加。

掲載メディア:サイクリスト.jp・日刊スポーツ.com・サイクルスポーツ web・共同通信社 配信(加盟47社宛)他

なお、UCIクラス2.1へランクアップしたことの認知が広がり、トップレベルの選手が集うプロチームの参加が可能になることや、京都ステージが新設されて大会史上初の8ステージ・8日連戦となることから、国内選手の自転車競技レベルの向上、また、新規ファンの獲得を目指すことができる。

## 2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動

### (1)自転車月間推進事業

「自転車月間」は、昭和56年5月に「自転車の安全利用の促進及び自転車駐車場の整備に関する法律」が施行されたことを機に、自転車の持つ社会的責任を自覚しつつ、改めて自転車の可能性とそれを取り巻く諸問題の解決策などについて検討する機会として設定された。

#### ①自転車月間推進協議会の開催

昭和56年度に関係省庁の後援を得て、自転車関係団体及び自転車月間の趣旨に賛同した公益法人等39団体(平成27年度においては29団体)によって「自転車月間推進協議会」が設置された。「自転車月間」の趣旨に沿った事業を重点的に実施することを目的として下記の会議を開催し、事業報告・決算の承認を行った。

#### 記

(ア). 平成27年度第1回自転車月間推進協議会総会

日時:平成27年7月21日(火)14時～

(イ). 平成27年度第2回自転車月間推進協議会総会

日時:平成28年3月18日(金)14時～

#### ②「自転車の日」記念事業

自転車月間の設定趣旨を普及啓発するため、平成10年から5月5日を「自転車の日」と定めており、その記念行事として聖徳記念絵画館前通り(東京都新宿区霞ヶ丘町)及び神宮外苑サイクリング道路において「サイクルドリームフェスタ2015」を開催した。

平成25年より屋内イベントから実際に自転車に乗れる屋外型のイベントへと変更した。来場者数は4,025名(前年比110.8%)と前年度より1割以上増加した。

滞在時間が長く、アンケート集計にも面白かったという意見が多かった。ゴールデンウィーク期間中の開催ということもあり、家族連れが多く来場し、「ピーポくんの交通安全教室」や「自転車の乗り方教室」などを通じて、親子でルール・マナーを楽しく学ぶことや、

試乗機会の少ない高級スポーツバイクと電動アシスト自転車で走る事で街乗りの軽快車との違いを体験するなど自転車に関する理解を深める場を提供することができた。

日時:平成27年5月5日(火・祝) 10:00~16:00

場所:聖徳記念絵画館前通り(東京都新宿区霞ヶ丘町)及び神宮外苑サイクリング道路

来場者数:4,025名

(イベント内容)

<ステージイベント>

(ア) 自転車科学教室

~自転車はどうして倒れないの?~

・谷田貝一男 (一財)日本自転車普及協会 自転車文化センター学芸員

(イ) 自転車メンテナンス講座 \*協力:なるしまフレンド(計2回)

(ウ) 我らワールドがロードレースを語る

・DJサッシャ氏/栗村 修 ツアー・オブ・ジャパン大会副ディレクター

(エ) ツアー・オブ・ジャパントークショー

・栗村修/山本雅道選手(キナンサイクリングチーム)

(オ) Cyclingood-自転車と健康の話- \*協力:(株)シマノ(計2回)

(カ) ピーボ君の交通安全教室/自転車乗り方教室 \*協力:警視庁四谷警察署

(キ) ロック・ロックで愛車を守ろう \*協力:警視庁生活安全総務課

(ク) おもしろ自転車トークショー \*協力:内海潤自転車活用推進研究会事務局長

(ケ) パンク修理教室

・中野俊喜 (一財)日本自転車普及協会 自転車文化センター課員

<体験イベント>

(ア) 自転車体験試乗会 \*協力:(株)シマノ/パナソニックサイクルテック(株)/

ブリヂストンサイクル(株)/(株)ミヤタサイクル/GOKISO/MAVIC/

WINSPEACE JAPAN/Y's Road

(イ) 多目的自転車展示・試乗コーナー \*協力:フランスベッド販売(株)/(株)TESS

(ウ) おもしろ自転車試乗コーナー

(エ) 自転車キッズ検定

(オ) 働く自転車展示・実演 \*協力:紙芝居屋しょうちゃん

(カ) 発電自転車体験コーナー

(キ) 災害用自転車試乗展示・実演

<出展ブース他>

(ア) 警視庁四谷警察署 白バイと記念撮影/自転車乗り方教室

(イ) 警視庁生活安全総務課/防犯対策 PR

(ウ) 東京都青少年・治安対策本部/自転車交通安全シミュレーター体験

(エ) WAKO'S

(オ) 大人の自転車部

(カ) (一財)日本自転車普及協会 自転車月間事業・バイコロジーPR

(広報)

【事前】ポスター160枚やチラシ6,000枚を作成し、4月から5月にかけて開催地である東京都内の施設や関係団体等に配布した他、自転車専門誌(サイクルスポーツ・バイシクルクラブ)に告知広告を掲載した。また本会ホームページや自転車愛好者のアクセス数が高いホームページ(サイクリスト他)、新聞等にも開催告知の掲載を行った。

新聞(朝日新聞・読売新聞・日刊ゲンダイ)で開催告知記事が取り上げられた。

【当日】会場付近にて、チラシを配布し、会場への誘導を行った。

【事後】本会ホームページに実施結果を掲載すると共に、TOKYO MX テレビにて、5月5日18時からのニュースで、開催の様子が放送された。

## (2)自転車文化センター運営事業

自転車に関する正しい認識と理解を深め、自転車文化を醸成するため、本会が運営する総合情報提供施設「自転車文化センター」を拠点に、競輪からの支援による自転車関連の補助事業或いは当財団の自主事業による調査研究、資料の収集、情報の提供および広報活動等を行った。

### ①自転車に関する総合情報提供事業

国内外の自転車の実物・図書・映像ならびに関連資料及び情報の調査・収集を行い、収集した資料・情報は「自転車データベース」に登録して管理・保管し、来館者やマスコミ等に対して情報提供を行った。

(平成27年4月～平成28年3月の新規登録資料1,847点)

平成26年4月2日より目黒・自転車総合ビルにリニューアルオープンをして、満2年を迎えた自転車文化センターには、本年度6,079名(1日平均17名)が来館した。これら来館者に対して問合せ・図書等資料貸出に対応すると共に、電話・FAX・e-mailによる問合せや相談・質問115件に対して、ご依頼内容を解決するための相談対応や情報提供を行った。

また、平成27年4月～平成28年3月までの自転車文化センターホームページのページビュー件数は、128,289件となった(\*平成10年の運用開始からの述べアクセス件数は2,394,382件となっている)。

さらに、資料貸出・取材協力・監修協力・出演依頼を受け、学芸員を中心に協力等の対応を行った(\*別紙1「平成27年度自転車文化センター取材・協力等一覧」参照)

### ②自転車に関する企画催事の実施

自転車の総合情報発信基地である当センターが、過去20年以上に渡って開催してきた『ハンドメイドバイシクル』展は、自転車トラック競技の最高峰・競輪選手やロードレース選手、そして自転車スポーツ・サイクリング愛好家から好評を得てきた。

日本及び海外のハンドメイドビルダーの高い技術と自転車に対する深い造詣、そうした匠の技を自転車愛好家のみならず広く一般の人々に周知すると共に、乗り手の体格・目的に応じた自転車に乗って自転車スポーツを楽しむことの素晴らしさを啓発するため、下記の企画催事を開催した。

## 記

名称:『2016ハンドメイドバイシクル展』

期間:平成28年1月23日(土)・24日(日)9時30分～16時50分

場所:科学技術館1階 1～4号催事場

内容:(ア)実車・部品の展示

- ・「スポーツ用自転車」部門
- ・「街乗り用(高齢者・障害者用含む)自転車」部門
- ・「独創的パーツ」部門

(イ)ハンドメイドビルダーによるトークショー(2社/各約1時間)

- ・今野製作所 今野真一氏(1/23 12時から)
- ・絹自転車製作所 荒井正氏(1/24 15時から)

(ウ)ガールズケイリン選手トークショー

- ・高橋梨香選手(埼玉・106期/1/24 14時から)

(エ)「ハンドメイドバイシクルを知ろう!」コーナー

・パネルや工具、パーツ、フレームなどの展示コーナーでは自転車製作の流れを展示。1日工房体験コーナー「mm単位の製作～自転車フレームを組み立ててみよう～」においては、自転車はどのように作られているのかを実際に簡易フレームキットを使って製図を元に組み立てる体験や、やすりがけを実施した。

来場者数:合計2,562人(23日1,242人/24日1,320人)\*対前年度比105.3%

### ③自転車に関するテーマ展示

自転車文化センターギャラリー・ライブラリー内で、3ヶ月ごとにテーマを設けて、所蔵資料を活用し紹介するテーマ展示を開催した。自転車に対する親しみを深めてもらうとともに、自転車の新たな魅力・利用方法等について周知した。

(ア)名称:『自転車月間・自転車ロードレース「ツアー・オブ・ジャパン」展

期間:平成27年4月1日～平成27年6月21日

内容:サイクルドリームフェスタ2015紹介

ツアー・オブ・ジャパン(TOJ)ステージ紹介

TOJ出場3チーム実車・ユニフォーム展示

2014TOJ大会総集編TV番組放映 他

入場者数:1,466名

(イ)名称:「はじめてみませんか!?サイクリング」展

期間:平成27年7月1日～平成27年10月4日

内容:自転車をはじめたい初心者、女性、中高年に向けてサイクリングの楽しさ・魅力を紹介展示。

入場者数:1,400名

(ウ)名称:「コンパクトサイクル」展

期間:平成27年10月7日～平成27年12月27日

内容:自転車の楽しみ方が広がる「折りたたみ自転車」や「小径コンパクト自転車」の展示。

入場者数:1,486名

(エ)名称:「ハンドメイドバイシクルの魅力」展

期間:平成28年1月14日～平成28年3月31日

内容:手作り世界に1台のオリジナル自転車を作り上げるハンドメイドバイシクル工程作業の映像、パーツ・フレーム等の展示。

入場者数:1,534名 \*4展示入場者数合計 5,886名

④自転車教室(楽しさと安全利用)

自転車の楽しみや魅力を伝えることを目指して、夏休み期間中に一般の人々が参加・体験できる自転車科学教室ならびに自転車のしくみ教室を開催した(科学教室定員8名・自転車のしくみ教室定員5名)。

記

8月16日(日)・11時から「自転車科学教室」(参加者8名)

・13時から「自転車のしくみ教室」(参加者5名) \*参加者合計13名

加えて、地方自治体等からの依頼を受けて、当センター学芸員や自転車安全教育指導員資格を有するスタッフが講師となり、小・中学生や一般社会人・高齢者等を対象に、パワーポイントを使った座学講習や、当センター所有の自転車シミュレーターなどによる実技体験を盛り込んだ出張形式の自転車交通安全教室などを、合計18回開催した。

(ア)「東京サイクルデザイン専門学校教員研修セミナー」

日時 平成27年4月10日(金) 10時～12時

主催 東京サイクルデザイン専門学校

場所 東京サイクルデザイン専門学校デザイン教室内

内容 同専門学校教員等に向け、自転車文化理解向上のための講義を行った。

人数 10名

(イ)「自転車交通安全講習会」

日時 平成27年6月1日(月) 14時～16時

主催 Kインターナショナル東京

場所 Kインターナショナルスクール東京校内

内容 小学生低学年を対象に、自転車交通安全の座学講習並びに実技指導を行った。

人数 20名

(ウ)「自転車の道路交通法の改正ポイントと安全走行方法についての講習会」

日時 平成27年7月27日(月) 16時～19時20分

主催 (一社)板橋産業連絡会

場所 板橋連合会館3階会議室

内容 中小事業所の経営者及び管理監督者を対象に自転車交通安全講習会を行った。

人数 26名

(エ)「自転車事故の現状と対策講習会」

日時 平成27年8月8日(金) 10時～12時

主催 (公社)杉並区シルバー人材センター(井草地区)

場所 井草地域区民センター

内容 同シルバー人材センター会員を対象に、「自転車事故の現状と対策」についての講習会を行った。

人数 51名

(オ)「親子自転車安全教室」

日時 平成27年7月11日(土) 10時～

主催 川崎市幸区PTA協議会

場所 川崎市立戸手小学校内

内容 子供保護者を対象に、交通事故撲滅のための自転車の交通ルールと安全マナーの講習会を行った。

人数 218名

(カ)「平成27年度交通安全指導員道東ブロック研修会」

日時 平成27年9月16日(水) 15時～16時30分

主催 帯広市交通安全推進委員連絡協議会

場所 とかちプラザ

内容 帯広市内の交通指導員を対象に、「自転車の交通ルールとその指導及び啓発」を図る講演を行った。

人数 約380名

(キ)「九州ブロック平成27年度交通ボランティア等ブロック講習会」

日時 平成27年9月30日(水) 9時～10時

主催 (一財)日本交通安全教育普及協会(内閣府)

場所 ニューウェルシティ宮崎ホテル

内容 県交通ボランティア等を対象に、交通安全意識及び資質の向上を図るため自転車の交通安全講習会を行った。

人数 50名

(ク)「自転車のシミュレーターを使った自転車安全講習会」

日時 平成27年10月21日(水)・22日(木) 午前の部 9時30分～12時  
午後の部 13時30分～16時

主催 (公財)東京しごと財団

場所 東京しごとセンター

内容 公益財団法人東京しごと財団主催によるシルバー人材センター安全管理委員会の委員を対象として、安全な自転車の乗り方についての講義及び自転車シミュレーターを使用した体験学習を行った。

人数 44名(午前28名・午後16名)

(ケ)「事故原因の落とし穴を知れば、ママチャリも楽しい乗り物」

日時 平成27年11月7日(土) 13時～14時

主催 東京青年司法書士会

場所 司法書士会館 5階会議室

内容 「自転車法トラブル無料相談会」開催の中で、相談会来場者並びに一般市民対象に、自転車の楽しみ方、自転車事故の原因などの講演を行った。

人数 7名

(コ)「東海・北陸ブロック27年度交通ボランティア等ブロック講習会」

日時 平成27年11月11日(火) 13時45分～14時45分

主催 (一財)日本交通安全教育普及協会(内閣府)

場所 ホテルリソル岐阜

内容 県交通ボランティア等を対象に、交通安全意識及び資質の向上を図るため自転車の交通安全講習会を行った。

人数 53名

(サ)「自転車のシミュレーターを使った自転車安全講習会」

日時 平成27年11月12日(木)・13日(金) 午前の部 9時30分～12時  
午後の部 13時30分～16時

主催 (公財)東京しごと財団

場所 東京しごとセンター

内容 公益財団法人東京しごと財団主催によるシルバー人材センター安全管理委員会の委員を対象として、安全な自転車の乗り方についての講義及び自転車シミュレーターを使用した体験学習を行った。

人数 92名(12日:47名・13日:45名)

(シ)「もしもの時のために知っておきたい自転車等の事故後の対応」

日時 平成27年11月14日(土) 10時30分～11時30分

主催 杉並区立荻窪小学校PTA会

場所 杉並区立荻窪小学校2階図書室

内容 同小学校PTA会員を対象に自転車等事故後の対応についての講習会を行った。

人数 約100名

(ス)「けいきさん自転車謎解きシンポジウム」

日時 平成27年12月6日(日) 13時30分～15時30分

主催 静岡市交通対策課

場所 常葉大学水落校舎 4階403教室

内容 一般市民並びに学生対象に、誰もが安全で快適に自転車を利用するにあたり、自転車に対する意識向上を図る講演を行った。

人数 約200名

(セ)「自転車安全講習会」

日時 平成27年12月2日(水) 14時～16時

主催 (公社)杉並区シルバー人材センター(高円寺地区)

場所 高円寺中央会議室

内容 同センター主催によるシルバー人材センター会員を対象とした、安全な自転車の乗り方についての講習会を行った。

人数 35名

(ソ)「自転車安全講習会」

日時 平成28年1月28日(水) 午前の部9時～12時 午後の部13時～16時

主催 (公社)国分寺市シルバー人材センター

場所 福祉センター3階 第1会議室

内容 同センター主催によるシルバー人材センター会員を対象とした、安全な自転車の乗り方についての講習会を行った。

人数 47名(午前:22名・午後25名)

(タ)「自転車安全講習会」

日時 平成28年2月26日(金) 午前の部 10時～12時  
午後の部 13時30分～15時30分

主催 (公社)葛飾区シルバー人材センター

場所 同センター3階会議室

内容 同センター主催によるシルバー人材センター会員を対象とした、安全な自転車の乗り方についての講習会を行った。

人数 37名(午前:20名・午後17名)

(チ)「自転車のシミュレーターを使った自転車安全講習会」

日時 平成28年3月15日(火) 9時30分～12時

主催 (公財)東京しごと財団

場所 東京しごとセンター

内容 公益財団法人東京しごと財団主催によるシルバー人材センター安全管理委員会の委員を対象として、安全な自転車の乗り方についての講義及び自転車シミュレーターを使用した体験学習を行った。

人数 16名

(ツ)「自転車安全講習会」

日時 平成28年3月30日(水) 13時30～16時30分

主催 (公社)渋谷区シルバー人材センター

場所 同センターせせらぎ内大会議室

内容 同センター主催によるシルバー人材センター会員を対象とした、安全な自転車の乗り方についての講習会を行った。

人数 24名

⑤自転車常設企画展示

年間約50万人が来館する「科学技術館」(千代田区北の丸公園内)2階に、歴史的自転車実物等の展示室『自転車広場』を出展した。【※】

展示場所:科学技術館2階(東京都千代田区北の丸公園2-1)

また、自転車のテーマパークである「日本サイクルスポーツセンター」(静岡県伊豆市)及び新設されたヴェロドロームにおいて、多数の来場者に対して自転車の歴史と利用促進を普及啓発する常設企画展示を行った。

展示場所:日本サイクルスポーツセンター(静岡県伊豆市大野1826番地)

内容(各展示共通):自転車文化センター各施設紹介パネルの展示、自転車及び関連物品展示等

期間(各展示共通):平成27年4月1日～平成28年3月31日

⑥自転車利用環境調査研究レポート

自転車文化の継承と普及、ならびに現在・未来における“人と自転車・社会と自転車”との関わりを考えるための調査研究として、下記の各3テーマ/合計6テーマのレポートを作成し、平成28年3月末に調査研究報告書を印刷・発行し、全国都道府県立図書館や47都道府県交通安全協会・47都道府県サイクリング協会等に配布した。  
\*発行3ヶ月後に当センターホームページにおいて公表予定。

<http://www.cycle-info.bpaj.or.jp/research/>

【自転車の通行環境】

・無信号交差点における自転車の事故(※人類働態学会会報第102号掲載)

【高齢者の自転車利用】

・高齢者の加齢による自転車事故(※人類働態学会会報第102号掲載)

・高齢者の交通ルール違反による自転車事故

・高齢者の自転車安全運転のための指導法(要旨)

【自転車競技の普及】

・明治29年に日本で行われた2つの自転車ロードレース

・自転車ロードレースの出来るまで



### (3) バイコロジー推進事業

#### ① バイコロジー地方組織開催事業

現在、地球温暖化防止が世界的な緊急課題となっており、自転車の持つ可能性に大きな期待が高まっている。また、自転車乗用環境整備の立ち遅れ、自転車利用者モラルの低下などによる、放置自転車問題、交通事故の増加等が社会問題として派生しており、その解決を図ることが喫緊の課題である。こうした状況を改善していくための方策の一つとして、全国的な規模でバイコロジー運動を実施している。

バイコロジーとは「自転車が安全かつ快適に利用できる自然豊かで人間味あふれる社会の構築を目指す」を理念としており、その推進のため統一キャンペーン事業や各地域の組織が創意工夫した事業を展開した。

#### (ア) バイコロジーをすすめる会総会

日時:平成28年3月18日(金)15時00分～

場所:自転車総合ビル 601会議室

議題:・平成28年度バイコロジー運動方針について

・平成28年度バイコロジー統一事業の概要について

・その他

#### (イ) バイコロジー地域活動

平成27年度バイコロジー運動方針に基づき、バイコロジー地方組織の統一活動として交通ルールの遵守と自転車乗用マナーの向上を訴えるキャンペーン活動を春と秋の全国交通安全運動の期間及び5月の自転車月間期間中に実施し、全国的な普及啓発を図った。また全国のバイコロジー地方組織が行う独自の事業として、自転車乗用環境の整備促進、放置自転車の一扫、自転車交通事故の解消、自転車による健康づくり等をテーマにした各種事業が実施された。(参考:高齢者への自転車交通安全教室など自転車交通安全関係事業、タンデム自転車走行会など自転車による健康づくり等事業 ほか) また、バイコロジー運動の効果を高めるために、各地方組織が使用するジャンパーを作製した。

#### ② 自転車市民権セミナー開催

乗用時にCO2を排出せず、環境に優しい乗り物である自転車利用を促進し、自転車の素晴らしさを広く普及啓発するために、自転車を取り巻く様々な問題を一般の方々と共に考え「自転車市民権」の確立を目指す場として、参加者のニーズに応えるため、その時々タイムリーなテーマを設定し、各界の第一線で活躍されている学識経験者や有識者を招聘し講演いただくことで、自転車の新たな情報の発信の場としての役割を創出することができた。

開催場所については、本会会議室(目黒自転車総合ビル6階601会議室)にて、計9回自転車セミナーを開催した。

○第1回自転車セミナー<6月25日(木)18時～20時>

講師:高千穂 遥 氏(SF作家)

テーマ:「自転車は老化と戦う武器でも、少し工夫とコツが要る」

参加者:57名

○第2回自転車セミナー<8月6日(木)18時～20時>

講師:沼 勉 氏(元宮田工業社員)

テーマ:「ツールで勝利したジャパンメイド」

参加者:48名

○第3回自転車セミナー<9月16日(水)18時~19時30分>

講師:奥平 正和 氏(旅人)

テーマ:「信念があれば道は開かれる」

参加者:14名

○第4回自転車セミナー<10月14日(水)18時~20時>

講師:古倉 宗治 氏(三井住友トラスト基礎研究所研究理事)

テーマ:「自転車の利用促進策のこれからのあり方~利用促進の限界を乗り越える方策~」

参加者:25名

○第5回自転車セミナー<11月24日(火)18時~19時30分>

講師:宮澤 崇史 氏(元プロロードレーサー)

テーマ:「日本から世界へ、海外生活18年の経験から見えたもの」

参加者:58名

○第6回自転車セミナー<12月16日(水)18時~20時>

講師:堂城 賢 氏(自転車ティーチングプロ)

テーマ:「自転車の乗り方の基本を創る~理想的な身体の使い方~」

参加者:68名

○第7回自転車セミナー<平成28年1月21日(木)18時~20時>

講師:堂城 賢 氏(自転車ティーチングプロ)

テーマ:「自転車の乗り方の基本を創る~理想的な身体の使い方~」

参加者:70名

○第8回自転車セミナー<平成28年2月19日(金)18時~19時30分>

講師:ペドロ・デルガド 氏(元プロ自転車競技選手)

テーマ:「自転車競技との出会い」

参加者:65名

○第9回自転車セミナー<平成28年3月17日(木)18時~19時30分>

講師:山岡 俊樹 氏(京都女子大学家政学部生活造形学科教授)

テーマ:「自転車とUX・サービス」

参加者:39名

### ③バイロロジー地域リーダー養成セミナー

地方におけるバイロロジー運動のリーダーを育成し自転車市民権運動の活性化を図ることを目的として、自転車を安心して乗ることが出来る環境づくりや今後の自転車のあり方を検討するバイロロジー指導者養成セミナーを下記のとおり開催した。

記

<地区・開催日>

(ア)東日本地区

平成27年11月10日(火)東京都品川区/自転車総合ビル601会議室

(イ)西日本地区

平成27年11月20日(金)福岡県福岡市/博多グリーンホテル2号館第8・9会議室

<内容>

(ア)講演

講師：高橋正良氏(新潟市「カミフルサイクルステーション」店長)

テーマ：『タンDEM自転車とまちづくりー解禁とその後ー』

(イ)バイロジ地方組織意見交換会

(4)自転車ポタリング

自転車は軽車両であり、車の仲間であり車道の左側を走行する乗り物であることを、一般の方に改めて知ってもらう機会として、参加者の方に楽しみながら自転車に乗ってもらい、自転車の正しい乗り方、ルールやマナー、車道走行する際の注意点等を学ぶ場を創出することを目的として、下記の通り実施した。

「ペドロ・デルガド氏 来日記念ポタリング」

開催日時：平成28年2月21日(日) 10:00～12:00

コース：自転車文化センター～神宮外苑～パレスサイクリング～虎ノ門～スペイン大使館(約17.1km)

参加者：30名

(5)自転車利用実態調査

都内における自転車利用の実態を把握するための走行台数、走行空間等の調査(自転車総合ビル前・都立高校・白金幼稚園前等)を行った。

また、自転車利用における乗用環境の実態を把握するために、駐輪状況(放置含む)、自転車レーンの確認等の調査(新橋駅他山手線10駅)も併せて行った。

全般的に歩道走行が多く、自転車の車道左側通行が浸透しておらず、逆走もみられるなど、また、鉄道駅周辺の放置自転車が増加傾向の中、更なるルール・マナー啓発の必要性がある。

①自転車走行状況の定点調査

都内における自転車利用の実態を把握するために走行台数、走行空間(車道・歩道)、および危険走行の調査を行った。

いまだ歩道走行が多く、自転車の車道通行が浸透しておらず、逆走もみられるなど、更なるルール・マナー啓発の必要性がある。

(ア)場所：自転車総合ビル前等、都内各所で実施

②自転車乗用環境実態調査

都内における自転車利用における乗用環境の実態を把握するために駐輪状況(放置含む)、自転車レーンの確認、および危険箇所の選定(交差点など)等の調査を行った。

(ア)場所：都内で選定した駅周辺で実施

(6)自転車駐車場設置貸与事業

全国の鉄道駅周辺の放置自転車対策としてモデルとなる自転車駐車場の整備を実施し、今年度も引き続き1箇所624台分の自転車駐車場を無償で貸与した。貸与している

自転車駐車場については、毎月、自転車利用状況調査を実施し、今後の放置自転車対策に役立てた。

なお、平成27年10月8日無償貸与期間が終了した、新須屋駅自転車駐車場については、合志市(熊本県)に、また平成28年3月31日無償貸与期間が終了した、金蔵寺駅自転車駐車場については、善通寺市(香川県)に無償で譲渡した。

### 3. 自転車 ADR 事業

本年度受付数27件、調停日数21回、和解成立数9件。

また、下記の通り自転車ADRセンター会議を開催した。

#### 記

#### ①平成27年度第1回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時 : 平成27年6月9日(火) 14時00分
- ・開催場所 : 自転車総合ビル6階602会議室
- ・議 題 : (ア)平成26年度事業報告について  
(イ)平成26年度決算報告について  
(ウ)自転車ADRセンター事業状況報告について  
(エ)有識者会議の開催について  
(オ)その他

#### ②自転車ADRセンター有識者会議

- ・開催日時 : 平成27年8月20日(木) 13時00分
- ・開催場所 : 自転車総合ビル6階601会議室
- ・議 題 : (ア)自転車ADRセンターの活動状況について(報告)  
(イ)自転車ADRセンターに望まれること  
(ウ)自転車事故等の情報収集について

#### ③平成27年度第2回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時 : 平成27年9月8日(火) 14時00分
- ・開催場所 : 自転車総合ビル6階602会議室
- ・議 題 : (ア)自転車ADRセンター事業状況報告について  
(イ)その他

#### ④平成27年度第3回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時 : 平成27年12月8日(火) 14時00分
- ・開催場所 : 自転車総合ビル6階602会議室
- ・議 題 : (ア)自転車ADRセンター事業状況報告について  
(イ)その他

#### ⑤平成27年度第4回自転車ADRセンター会議

- ・開催日時 : 平成28年3月8日(火) 14時00分
- ・開催場所 : 自転車総合ビル6階602会議室
- ・議 題 : (ア)平成28年度事業計画について  
(イ)平成28年度収支予算について  
(ウ)調停委員の候補者指名について  
(エ)利用相談員・事件管理者の候補者指名について

- (オ) 自転車ADRセンター調停手続規則の一部改定について
- (カ) 自転車ADRセンターの事業状況報告について
- (キ) 実務研修・実務情報交換会(2/23)報告について
- (ク) その他

#### 4. 自転車関連機器の普及等事業

投票業務用機器等の新機器導入のため、高松市等と新規にリース契約を下表のとおり締結した。

No.	リース先	契約日	リース物件名	リース期間
1	高松競輪場 (高松市)	リース H27.4.2 工事 H27.1.20	投票業務用機器等	H27.4～ 5年 H32.3
2	京王閣競輪場 (東京都十一市競輪事業組合)	リース H27.9.14 工事 H27.8.31	大型映像装置、デジタル化対応等	H27.10～ 5年 H32.9
3	取手競輪場 (茨城県)	リース H27.10.15 工事 H27.10.6	自動発売機等	H27.11～ 5年 H32.10
合 計			3カ所 3契約	

また、自転車競技の円滑な運営と高い競技レベルの維持に資するため、競技用自転車タイヤに関し、本会で製品の備蓄を行い、利用者に販売する他、関連する自転車アクセサリーの販売も行った。

#### 5. 財団の運営に関する業務

平成 27 年 6 月 26 日、平成 26 年度公益目的支出計画実施報告書を内閣府公益等認定委員会に、電子申請により提出した。

「自転車総合ビル」関係では、空調設備改修(8階及び7階1基)、空調機器等不要物撤去・防水工事(3階屋上)及び防犯カメラの設置(1階共用部及び自転車文化センターライブラリー)を行った。また、ビル管理会社を選定し、自転車総合ビルの管理体制の確立を図った。

\*なお、以下の事業については、(公財)JKAの公益振興補助事業として実施した。

1. 自転車競技の普及促進事業
  - (1) ツアー・オブ・ジャパン開催の全体管理に関する事業
  - (2) ツアー・オブ・ジャパン富士山・東京ステージ開催・広報事業
2. 自転車と人にやさしい健康で安全な社会づくりを推進する活動
  - (1) 自転車月間推進事業
  - (2) 自転車文化センター運営事業

- ①自転車に関する総合情報提供事業
- ②自転車に関する企画催事の実施
- ③自転車に関するテーマ展示
- ④自転車教室(楽しさと安全利用)
- ⑤自転車常設企画展示(科学技術館内自転車広場)
- ⑥自転車利用環境調査研究

(3)バイコロジー推進事業

【参考】

各種委員会等会議一覧(平成27年度開催実績分)

- 1. 自転車月間推進協議会総会
- 2. TOUR OF JAPAN 組織委員会
- 3. バイコロジーをすすめる会総会

報告書等印刷物一覧(平成27年4月～平成28年3月作成分)

	印刷物	総部数
1.	「第18回ツアー・オブ・ジャパン」告知チラシ(A4)	13,000
2.	「第18回ツアー・オブ・ジャパン」ポスター(B2)	2,300
3.	「第18回ツアー・オブ・ジャパン」プログラム	10,000
4.	「第18回ツアー・オブ・ジャパン」報告書	1,800
5.	「第18回ツアー・オブ・ジャパン」東京ステージ交通規制チラシ(B4)	61,000
6.	「第18回ツアー・オブ・ジャパン」東京ステージ交通規制バスポスター(B3)	300
7.	「第18回ツアー・オブ・ジャパン」テクニカルガイドブック	300
8.	「第18回ツアー・オブ・ジャパン」オフィシャルマニュアル	250
9.	自転車安全利用促進キャンペーンパンフレット	64,800
10.	自転車月間「自転車の日」記念行事事業報告書	270
11.	自転車月間「自転車の日」記念行事『サイクルドリームフェスタ2015』チラシ	6,000
12.	自転車月間「自転車の日」記念行事『サイクルドリームフェスタ2015』ポスター	160
13.	平成27年度・自転車文化センター調査研究報告書(第8号)	300